

1

1 発車  
2 船旅  
3 鉄道

4 作曲  
5 詩集  
6 短歌

2

1 のび  
2 教室コント

3 筆技  
4 エ  
5 ウ  
6 ア  
5 息

6 現実  
7 逆にい

3

1 中村  
2 クリ  
3 お菓

2 ユニ  
3 自  
4 建

5 イ  
6 ウ  
9 ア  
6 ちな

7 エ  
8 ごめんね

9 2  
2  
1

配点	
1	各2点×6=12点
2・3	各4点×22=88点
〈計〉100点	

1 「発射」としないように気をつけよう。「射」は「矢を放つ」「勢いよく放つ」という意味を持つ字なので、バスには合わない。  
2 「旅」は筆順を間違っているために右側の形が崩れているものが散見される。左向きの払いを縦棒の前に書くこと。  
3 「鉄」の右側を「矢」としないようにしよう。線が突きぬけるかどうかで別の字に見えてしまうこともある。丁寧に書こう。  
4 「曲」を「由」としないように気をつけよう。字の通り「曲を作ること」である。字は難しくないので確実に正解してほしい。  
5 「詩」を「詞」としないように気をつけよう。「詞」は「ことば」、「詩」は「感動を表現する文学」である。  
6 「歌」は左側の縦棒を下まで貫くのではなく、「可」を縦に二つ並べたような形である。右側は「文」としないようにしよう。

2  
1 線①を含む一文には「気付いたこと」についての説明が無く、後続部分で説明されるのだろうと予測できる。通読の際には「どんなことに気付いたのか?」という疑問を持つて読み進められれば、(4)を含む行に「DVDを見ては」としたの「は」という表現があることに気付けただろう。これで先にⅡが「救い」に決まる。Ⅰは、なぜ子どもたちに「救い」が必要なのか? 子どもたちはふだんどんなことが「できない」のか? と考えて探していこう。最終段落に「現実の学校」の問題点が挙げられていて、「一番大切なのは、子どもたちがのびのびと学ぶことができることである」とある。

2 ②を含む一文をていねいに読んでヒントを見つけよう。「先生」と「生徒」が出てくる「人気があった」コーナーである。本文全体を通して、この「教室コント」のおもしろさについて語られていた。  
3 線③の前後から、「今、改めて見ると実は綿密に計算されていたとわかる当時の演技」とはどのようなものか? と考えよう。一文前に「〜当時は適当にやっているんだろくらいにしか思わなかった」とあるので、この直前部分をぬき出せばよい。  
4 (4)は後の「〜だろう」と対応して疑問の形をつくる「なぜ」があてはまる。(5)は前後のつながりから、「言うまでもなく」「当然」という意味の「もちろん」があてはまる。(6)は「授業時間が苦痛」というつながりなので「ずっと」があてはまる。「もし」は、「もし〜なら」という形で仮定するときを使うので、どこにもあてはまらない。

5 「息が詰まる」は、拘束されて自由に振る舞えない状態を表す慣用句である。意味を知っていれば易しかっただろう。  
6 ⑥の文の文言をヒントにしよう。Ⅰは、どんな状況を手で見ることでストレスが発散できるのか? と考える。――線⑦の直前に「〜状況を見ることで」とあるので、素直にそこを当てはめればよい。ⅡもⅠと同様にストレスを発散することで、何を保つことができるのか? と考える。これはやはり最終段落で「精神のバランスを保つことができる」とある。  
7 ⑦の文から、どれだけヒントを見つけ出せるかどうかである。「先生が問題を出した時に」や、「特に〜おかしくて仕方がないらしい」とあることから、教室コントを見た子どもたちの反応について述べている部分だと見当をつけよう。

3  
1 本文よりも前に書かれていたはずの内容を聞いているので、この場面の状況や、もしあるとすれば後から回想するようなシーンから類推するしかない。――線①の直後から、「中村くんのおとうさん」に関する話だったことはわかるが、ⅡとⅢはかなり後のほうまで読まないといけない。(9)の後で再び中村くんのおとうさんの話になり、「クリスマスが終わったら、写真で見せてもらおうよ。中村くんのお菓子の家」とあるので、「クリスマス」に「お菓子の家」を作っているということがわかる。  
2 ②を含む文は勝田さんの発言であり、二つ目の②の後に「つまり小泉さん」と言いかえていることから、勝田さんが小泉さんをどう呼んでいるのか? と考えればよい。【中略】の四行後ではっきりと書かれていた。

3 【中略】の直前で伊東さんが説明している。小泉さんのおとうさんは会社の社長なので「自慢したく」なるのだが、おとうさんが無職になっている勝田さんには、それが気に食わないのである。  
4 問3のヒントにもなる問題である。「小泉さんのおとうさん」が④であるとして、唇は「すごいね」と感心しているの、立派な人なんだらうという見当がつく。本文後半の――線⑧の前後で、唇が小泉さんからおとうさんの仕事の話を知っている場面があった。

5 ( )は全て「唇は〜」からつながる部分なので、それぞれの場面での唇の気持ちや様子を考えればよいとわかるだろう。  
(5)は小泉さんが反省している様子と、「小泉さんっていい子だなあ」という唇の反応から考える。(6)はその前で勝田さんが素直に謝る子だと聞いた後、唇が「ちょっとかわいい気がする」と感じているところから考える。(9)は小泉さんの話を聞いたことで唇がいろいろなことに納得している様子から考える。

6 勝田さんは「ああいう言い方」をしてしまうことに「悩んでいる」のであるから、勝田さんの発言部分を探していけばよい。  
7 「あてはまらないもの」を選ぶことに注意しよう。小泉さんが「言わなくてよかった」と思っているのは自分のおとうさんが「本物のお菓子の家を作ったことがある」ということである。(5)の一行前で自分の自慢癖を「よくないよね」と反省していたのでアとイは外せる。また、(9)の直後では小泉さんの発言を聞いた唇が「もしそう言ってしまったら」「中村くんはさみしい思いをしたかもしれない」と理解しているところから、ウも外せる。エについては自慢癖に悩んでいたとは言えるだろうが、この一件で「解決した」とは言えないだろう。

8 勝田さんが今、言いたいことは何だろうか。勝田さんが小泉さんの自慢癖を注意したように、小泉さんも勝田さんのことをよくわかっていて、(5)の直後で「さっきはごめんね」と謝ってくると言っていた。

9 それぞれ本文中に対応する部分があるので、丁寧に照合しながら考えよう。Ⅲは④の一行後や【中略】の直後の様子など、本文全体から読み取ることができる。